



東京都立

# 八王子南特別支援学校 学校だより

令和 8 年 6 月 2 2 日発行  
第 3 号

八王子市鎌水 2-8 8-1

電 話 0 4 2-6 7 5-8 3 7 3

発行者 校長 山崎 裕之

## 6 月 梅雨の時期を迎えました

校長 山崎 裕之

尾根緑道(戦車道路)の紫陽花の花が色鮮やかになってきました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

新年度が始まってから2か月が過ぎました。1年生も学校の生活に慣れてきた頃だと思えます。

2,3年生は前期の現場実習を経験して、今後の各自の課題もはっきりしてきたのではないのでしょうか。それぞれが各実習先で過ごした期間は、緊張もあったでしょうが、次の成長に向けての良い経験になったと思えます。うまくできたことはこの後も続けてできるようにして、また、うまくいかなかったことは、これからの学校での生活や、家庭での生活の中でできるようにしていくことが大切です。また、実習先での仕事の内容は自分のやりたかったことなのか、それとも他の仕事が自分には合っているのか、そんなことを考えるためにも、現場実習は重要な体験となります。しっかりと振り返りを行い、次の機会に生かしていきましょう。

梅雨の季節は、気温や湿度の変化が大きく、疲れがたまったり、体調を崩しやすかったりする時期でもあります。学校では、水分補給や衣服の調整など、健康面の配慮を行いながら教育活動を進めております。御家庭におかれましても、十分な睡眠などの健康管理を引き続きお願いいたします。

## 第 1 期現場実習

進路指導部主任 萩原 秀朗

日頃より、本校の進路に関する取り組みについて御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、両科の 2 年生・3 年生は、この 6 月から現場実習期間に突入しています。3 年生は、卒業後に向けて自分の進路を「決定する」年度ですので、これまでの現場実習よりも緊張感は強いのではないのでしょうか。また 2 年生は、初めて福祉事業所や企業に一人で行き、日中活動や業務を経験するという生徒が多く、巡回にて様子を見ていると大変緊張している様子が伺えます。

この文章を記した時期はちょうど半数の生徒が現場実習を終えたタイミングでしたが、実習先からいただいたアドバイスとして多かったのは、

- ①自分ができる、最大限のあいさつをできるようになりましょう。
- ②報告、連絡、相談、そして自分の気持ちを相手に伝えることができるようになりましょう。



など、コミュニケーションスキルに関するものが多かったです。実習先の多くは仕事ができることよりも、一緒に働く仲間と良好な関係を築こうとすることができる生徒を求めていることが伺えました。「おはようございます」から一日の学校が始まり、「さようなら」で一日の学校が終わるというように、あいさつを常に心掛けた学校生活の取り組みに向けて進めていきたいと思えます。